

氏名	山本 英子	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	母性看護学・助産学				
学位	修士（保健学）				
学歴	2006年群馬大学大学院医学系研究科博士前期課程				
経歴	2006年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、07年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教、14年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、18年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本思春期学会、日本新生児看護学会、日本小児保健協会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会、千葉看護学会、日本看護シミュレーションラーニング学会				

【2022年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	みえる生命誕生 改訂新版	共著	あり	株式会社 南江堂、P:255	鮫島 浩,大月恵理子監訳	2022.9
2	第112回 第1回看護師国試合格チャレンジテスト解答・解説書2022	共著	なし	株式会社学研メディカル秀潤社、P:225	看護師国試合格チャレンジテスト編集委員会	2022.4
3	第112回 第2回看護師国試合格チャレンジテスト解答・解説書2022	共著	なし	株式会社学研メディカル秀潤社、P:273	看護師国試合格チャレンジテスト編集委員会	2022.8
4	第112回 第3回看護師国試合格チャレンジテスト解答・解説書2022	共著	なし	株式会社学研メディカル秀潤社、P:229	看護師国試合格チャレンジテスト編集委員会	2022.11
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）			運動行動変容ステージを基盤とした妊婦の身体活動を促進する看護介入の開発	研究代表者	2018.4～2024.3
2	埼玉県立大学 奨励研究（A）			分娩介助実習直前の助産学生における模擬産婦演習の教育効果の検討：演習前後の実習意欲の変化	研究分担者	2022.4～2024.3
3	埼玉県立大学 奨励研究			妊産婦の健康課題解決に向けた子育て世代地域包括ケアシステム構築のための実証研究	研究協力者	2022.4～2024.3
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	母性看護学Ⅱ		1	・看護過程について、母性看護学領域におけるウェルネス志向型の系統的・段階的に理解が深まり、講義・演習・実習の連続性を意識し支援した。		
2	分娩期のケア		2	・助産師としてのキャリアデザインを意識し、診断・ケア技術能力が向上するように。また、ガイドラインや研究結果、臨床での実際の説明も含め講義を行った。		

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	母性看護学Ⅱ		4	・看護過程について、自己学習やグループ討議を系統的・段階的に理解が深まり、講義・演習・実習の連続性を意識し支援した。また、各グループ間での情報共有により母性看護学領域における看護過程の展開への理解が深められるよう意図的に関わった。 ・対象者(褥婦・新生児)と看護職者の関わり場面の動画を作成し、対象者のイメージ化を図り看護過程に反映できるように支援した。
2	周産期のケア		4	・助産師外来演習(妊娠健康診査および妊娠期の保健教育)ではロールプレイを活用し、対象理解や対象者(妊婦)からの視点でも助産ケアを考察でき、さらに実践を省察できるように関わった。対象者のニーズに沿った一貫性を意識した看護過程の展開となるよう支援した。
3	分娩期のケア		28	・助産師としてのキャリアデザインを意識し、診断・ケア技術能力が向上するように。また、ガイドラインや研究結果、臨床での実際の説明も含め講義を行った。 ・ICTや模擬患者を活用したシミュレーション教育を行い、診断・ケア技術、コミュニケーション、チームワーク、評価(リフレクション)の能力が向上するよう支援した。感染予防対策を講じた上での実習室の開放・指導担当教員の配置をし自己練習・学習の環境を整え短期間での技術習得を支援した。
4	リプロダクティブヘルスと看護		3	・各学生が自分の興味のあるリプロダクティブヘルスに関するテーマについて発表ができるように個別面談などを行った。とくに、テーマ設定、目的の明確化を行い、一貫性のある内容となるよう支援した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	母性看護学実習		2022.5～2022.6	3年次生を対象に、学内代替実習・臨床講義の実習指導を行った。産褥期・新生児期の変化、母乳育児支援、母子相互作用・愛着形成、退院後の生活について、対象理解が深まるよう支援した。
2	総合実習		2022.7	4年次生を対象に、妊娠期・産褥期・新生児期にある対象の包括的な理解や、個別性の高い健康教育の実践に向けて、とくに支援した。
3	助産学実習Ⅱ	○	学外実習： 2022.8～2022.11 学内実習：10	コロナ禍により実習方法(代替実習方法、含)を検討し、施設と調整し実施した。4年次生助産系学生を対象に産科病棟で実習指導を行った。入院の判断から分娩介助まで実施し、継続性と個別性の視点をもてるよう支援した。また、NICU実習全般について、調整を行った。
4	IPW実習		2022.10	4年次生5名の教員ファシリテータとして、遠隔実習での積極的な参加、活発な討議、効果的なリフレクションができるよう支援した。1施設2グループであったため、グループ間で共有・討議・リフレクション等ができるように関わった。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2022.3～2022.12	主指導	3名 副指導 名
(5) その他				
	名称	期間	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	学内代替実習(母性看護学実習)の改良	2022.4～2022.6	・母性看護学実習(産科病棟実習)の代替実習として、臨地実習経験の少ない学生に対し、可能な限り臨地実習に近い形態・スケジュールを検討し、実習教育の質を担保に務めた。 ・模擬褥婦・指導者の設定、動画視聴、電子カルテや教材モデル等の活用などを行い、対人コミュニケーションや五感を使った観察から情報収集することを意識した学内代替実習を作成した。	

2	模擬産婦の養成（プログラム実施）	2022.6	・臨床実習前に、学生のリアリティショックの軽減のため、可能な限り臨地実習に近い形態・スケジュールで、模擬産婦を活用したリアルな分娩介助演習を実施し、臨地実習経験の少ない学生に対し、実習教育の質を担保している。本演習で模擬産婦として参加可能な「助産教育やシミュレーション教育、模擬産婦に興味があり、分娩進行を理解している助産師または看護師で出産年齢の女性」を募集し、分娩期の産婦のシナリオに沿った演技や分娩第2期の胎児を模型からの適切な娩出方法の習得、学生のケアを産婦の立場でフィードバックすることができるようトレーニングをした。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	助産師交流会	埼玉県立大学	多文化共生！今・これから私たち助産師にできること	2022.10.
2	ベビーマッサージ	越谷市児童館 ヒマワリ	ベビーマッサージ&エクササイズ ～親子で楽しくスキンシップ～	2023.3.
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	埼玉県看護協会 助産師職能委員会	委員		2020.6～現在
2	越谷市男女共同参画推進委員会	委員（2019.7～会長）		2017.7～現在
3	埼玉県立春日部女子高等学校	学校評議員		2018.4～現在
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	専門職連携推進部会（IPW総合課程：IPW実習担当、地域窓口：さいたま・県央）		2019.4～現在
2	全学的委員会及びセンター業務等	専門職連携基礎研修担当		2023.2
3	学科等における委員会等	保健師助産師関連科目選考委員会		2021.4～2023.3
4	学科等における委員会等	国家試験対策プロジェクトメンバー		2019.4～2023.3
5	学生支援	ソフトボールサークルWSSC顧問		2016.4～現在
6	学生支援	車いすバスケットボールサークルSPRED顧問		2020.4～現在
7	学生支援	看護学科4年次生担任		2019.4～2023.3
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	該当なし			
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			